

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 3 回 助成期間：平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 10 月 31 日

テーマ：大岡川の生きものとふれあい、自然を大切にしようとする心を育てる。

氏名：宮川 大輔 所属：横浜市立南小学校

1. 課題の主旨

「身近にある大岡川の生きものとふれあうことで、自然への興味・関心を持ち、自然を大切にしようとする子どもを育てる」ことを目的とした。

本校では、身近にある「大岡川」をつかった学習が多く取り入れられてきたが、大岡川に生きものがいることは知っていたが、どんな生きものがいて、どんな川なのか知っている子どもは、ほとんどいなかった。そこで、子どもたちが一番興味をもちそうな生きものから大岡川について知ってもらおうと考えた。

具体的には、理科室前のショーケースを「大岡川水族館」として整備し、大岡川清掃やリバーウォッチングの際に捕獲した生きものを入れ、子どもたちがいつでも大岡川の生きものを観察できる環境作りをしたいと考えたのである。そして地域にある「大岡川ファンクラブ」との関係を図りながら、子どもたちが大岡川に興味を持ち、自然を大切にしていこうとする活動につなげようと考えた。

2. 準備

- ・理科室前のショーケースの整備をする(古くて見にくいガラスの交換・内側ステンレス枠の設置など)。
- ・大型水槽、水槽内小物、照明、エサ等を必要分そろえ、捕まえた生きものを飼育できる環境を整える。
- ・特設クラブとして、「生きもの観察クラブ」を発足し募集する。
- ・大岡川で観察用の生きものを捕獲し、ショーケース内の水槽に入れていく。
- ・児童の大岡川清掃やリバーウォッチングへの交流参加。

3. 指導方法

- ・まずは子どもたちの興味・関心を高めるためショーケースに生きものを展示し、教師が解説をした。
- ・できるだけ多くの児童に大岡川を知ってもらうため、大岡川ファンクラブ主催のイベント(大岡川清掃・リバーウォッチング・源流散策・バードウォッチングなど)への積極的参加を呼びかけた。
- ・大岡川ファンクラブ主催のイベントで興味をもった児童を中心に「生きもの観察クラブ」を立ち上げた。
- ・「生きもの観察クラブ」で大岡川水族館を管理・整備し毎日のエサやり当番を決めたり、校庭の使われなくなった池の整備をしたりする活動を始めた。
- ・整備した池や水槽に大岡川のメダカやテナガエビ、ウナギ、カワアナゴ、チチブなどを放し飼育を始めた。

4. 実践内容

- ・理科室前のショーケースを整備し「南小水族館」として活用した(名前は児童が決めたものに変更)。
- ・大岡川ファンクラブ主催のイベントへ積極的に参加した。
- ・平成 19 年 4 月から特設クラブ「生きもの観察クラブ」を設置し、南小水族館の管理や校庭の池の整備などを行った。
- ・池に放した生きものについて全校児童へ発信し、調べたことをポスターとしてまとめた。
- ・希望クラスへの水槽設置、生きものプレゼントを行った。

5. 成果・効果

- ・南小水族館を開設したことにより、休み時間や放課後、理科室前で水槽の中を観察している児童が増えた。
- ・普段、なかなか見られないウナギの捕食や絶滅危惧種カワアナゴの捕食を見て感動し、生きものに対する興味をもった児童が増えた(保護者からの手紙にも、今まで苦手だった生きものに対して興味をもち自分から調べている姿が見られたとあった)。
- ・大岡川ファンクラブのイベントに参加し、大岡川の生きものや自然に対する興味・関心が高まった児童が多く、大岡川清掃やリバーウォッチングへの参加人数も増えてきた。
- ・高学年の児童を中心に「生きもの観察クラブ」をつくり、メンバーを中心に、大岡川のことを全校に知らせていこうという意識が高まってきた。
- ・ポスターなどで全校へ発信したことで、生きもの観察クラブのメンバー以外の子どもたちも大岡川の生きものについて詳しくなってきた。
- ・自分たちで池の整備をし、生きものを放すことで、愛着がわき、命の大切さにも気付く児童が出てきた。
- ・自分たちのクラスでも生きものを飼いたいという希望が多く、メダカやスジエビ、水草などをプレゼントした。

6. 所感

・この度の理科・環境教育助成によって得られた成果を見ると、学習する場の設定がとても大事だということがわかる。子どもたちは、はじめのきっかけ(今回は大岡川水族館の開設)さえ与えてやれば、興味・関心をもって自分たちで学んでいくのだと再度、認識させられた。生きもの大好き、自然大好きという人間になれる要素をもった子どもたちは、たくさんいるのだが、残念ながら、そういったものにふれる機会がなく育ってしまう子どもが多い。研究の結果、こんなに多くの子どもたちが生きものや自然に対する興味をもっているのだなと気付かされた。今後も大岡川をはじめ、生きものと多くふれあう機会を設け、自然を大切にしようとする心をもった子どもを育てていきたいと思う。

7. 今後の課題や発展性について

- ・今回の研究で興味をもった児童がたくさんいるので、今後、「生きもの観察クラブ」を毎年続けていきたい。「生きもの観察クラブ」を中心に大岡川関連の活動を全校に発信したり、地域の大岡川ファンクラブの方達とふれあったりする活動を継続していきたい。
- ・使われていない古い池があるので、整備し生きものを放して観察できるようにしていきたい。
- ・捕まえた生きものの生態について詳しく調べ発表する場を設けていきたい。

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

地域の広報誌に大岡川での活動の様子が掲載された。